

令和7年度 千葉県における「まこがれい東京湾海域」に係る資源管理協定の取組の効果の検証結果（中間）

（1）千葉県におけるマコガレイの漁業実態

千葉県におけるマコガレイは、主に東京湾内湾で漁獲されており、漁法は小型機船底びき網漁業や刺し網漁業となっている。東京湾におけるカレイ類の漁獲量は、過去にはイシガレイ主体であったが、現在ではマコガレイが主体となっている。

（2）資源管理の目標及び目標達成のための具体的な取組

目標（千葉県資源管理方針に定める資源管理の方向性）

千葉県沿岸水産資源の資源評価における資源動向を令和9年までに増加とすることを旨とする。

該当する資源管理協定

「まこがれい東京湾海域」に係る資源管理協定（以下、協定という。）は、下表のとおりで、7漁協所属の約90名が、マコガレイを対象とした、それぞれの協定に参加しており、このうち本検証の対象となるのは、4協定となっている。

協定	備考	協定	備考	協定	備考
市川市		新木更津市		天羽	
船橋市		富津			
金田		新富津			

本検証の対象協定

自主的取組

東京湾内湾の小型機船底びき網漁業では、関係漁業者により、内湾底びき網連絡協議会が組織されており、資源管理の取組は当該協議会で協議決定の上、実践している。

漁業の種類	資源管理の取組	取組の内容	備考
小型機船底びき網漁業	休漁日の設定	定期休漁（火・土曜日） 定期休漁（火・土曜日） ただし、各市場の臨時開場日前日は出漁することが出来る。	富津、新富津 市川市
	操業時間の制限、 漁具の制限等	漁具の制限：桁幅の制限 操業時間：内湾底びき網連絡協議会で資源状況等に応じて協議決定	全協定
刺し網漁業	休漁日の設定	漁協公休日 漁協魚市場公休日	富津 天羽

協定に記載されている取組

上記取組の他、小型機船底びき網漁業では、資源状況等に合わせて内湾底びき網連絡協議会で協議決定した、年末年始お盆期間の休漁、禁漁区の設定といった様々な取組を実施し、状況に応じた検討を行っている。

(3) 資源管理の取組状況

東京湾におけるマコガレイ漁獲量は、長期的に減少傾向であり、2008年には100トン程度であったが、近年は10~20トン程度で低迷している(図1)。県の令和7年(2025)度資源評価では、現在の資源動向は中位、資源水準は横ばいとなっている(図2)。協定参加者による検証(以下、自己点検という。)では、全協定で漁獲努力量は3地区で維持、1地区で減少していると判断されたものの、全協定で漁獲量及びCPUE(単位努力量あたり漁獲量)は減少と判断されている。なお、魚価(単価)については、不明と回答があった1地区を除き、1地区で維持、2地区で増加と判断されている。

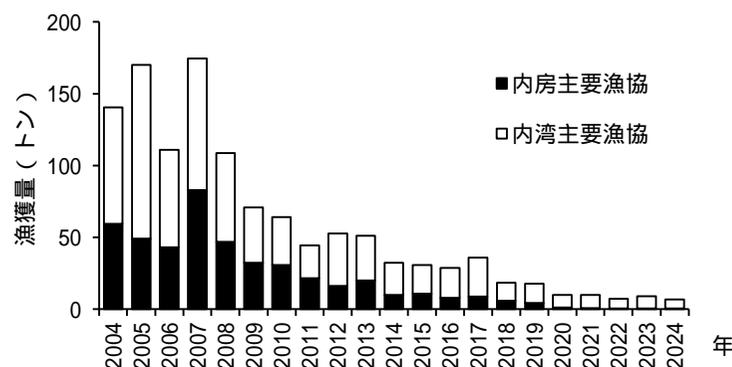


図1 東京湾主要漁協におけるマコガレイ漁獲量の経年変化 (千葉県調べ)

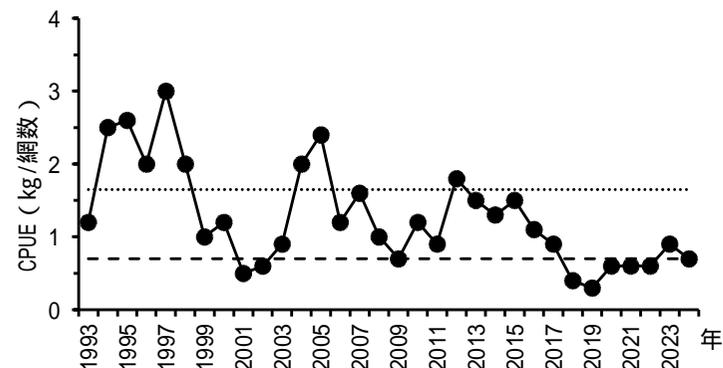


図2 小型機船底びき網の標本漁船によるマコガレイの1網当たり漁獲量(kg/網数:CPUE)の経年変化(千葉県調べ)

(4) 資源管理の効果を高めるための協定の改善・高度化の検討

マコガレイは2016年以降低水準が続いていたが、2023年以降は中位水準となっていることから、継続的な種苗放流や漁業者による資源管理の取組が資源の底支えにつながっていると考えられる。一方、自己点検では全協定で漁獲努力量は維持していると判断される中、「取組の効果は感じない」とされており、これは資源の低水準が続く前の2015年のような水準にはまだ至っていないことが原因であると考えられた。また、効果を感じられない要因は海洋環境による影響と判断されているが、東京湾内湾は貧酸素水塊等の海洋環境が漁業に大きく影響する海域で、貧酸素水塊はマコガレイ稚魚の生残に影響を与えていると推定されている。現在、稚魚の発生状況に応じて漁業者話し合いのもとで禁漁期間を設けるなどの小型魚保護の取組が実施されているが、今後も継続することで、2015年のような水準に至るような資源の増大につながると考えられる。また、現在、県では東京湾漁場環境改善に向けた一都二県の漁業者の取組の支援や、魚介類の産卵・生育の場である干潟の維持・保全を図るための覆砂等の取組を実施しており、漁業者による自主的な資源管理と共に推進していく必要があると考えられる。

このため、資源の有効利用を図るためには、現在の取組を継続していくとともに、今後の海洋環境の変化や資源状況を注視し、状況に応じた対応を検討していくことが重要と考えられる。